

お手入れ時の注意事項

商品を長くお使いいただくため、本書に従ってこまめにお手入れを行ってください。
お手入れせずに放置すると、表面に付着した汚れが、しみや腐食の原因となり、他の不具合につながる場合があります。特に海岸地域や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみや腐食が進みやすくなります。

また、ご自身で調整を行う場合も、本書に従って行ってください。

ご自身で調整しても不具合が改善されない場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または当社お客様相談室に修理を依頼してください。

お願い

【調整する場合】

商品を調整する際は、電動ドライバーを使用しないでください。
商品の不具合や破損の原因となります。

【水への配慮】

お手入れの際、窓やドアにホースや高圧洗浄機などで勢いよく水をかけないでください。
室内側へ水が入るおそれがあります。

ポスト口に、ホースなどで直接水をかけないでください。
内部の郵便物が濡れるおそれがあります。

【薬品への配慮】

お手入れの際、有機溶剤（シンナー、ベンジン、アセトンなど）を使用しないでください。
有機溶剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

お手入れの際、塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など）やエチルアルコールを使用しないでください。
表面に付着すると、変色するおそれがあります。
付着した場合は、すみやかに洗い落としてください。



【キズへの配慮】

たわしや金属たわしなどは、絶対に使用しないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

布やスポンジに砂などが付着したままふき掃除をしないでください。
商品にキズがつくおそれがあります。

お願い

【アルミ製商品】

表面に汚れがついた場合は、早めに洗い落としてください。
汚れがついたまま放置すると、しみ、腐食、色落ちするおそれがあります。

【スチール製商品】

玄関ドアの鋼板表面を水や中性洗剤でふいても、艶や色あせが改善されない場合は、研磨剤の入っていないワックスを使ってお手入れすることをお勧めします。

※ワックスの一例：植物成分100%のワックス

※ワックスを使用する際は、その用途を確認し、説明書に従ってお手入れしてください。
ドア鋼板に適さないワックスは、変色や汚損の原因となりますので使用しないでください。

【樹脂製商品】

ストーブやアイロンなどの熱源を近づけないでください。
熱源を近づけたり、触れたりすると、変形することがあります。

樹脂表面に、殺虫剤などの薬剤を塗布・散布しないでください。
薬剤が付着すると、ひび割れやはがれなどが発生するおそれがあります。

【アクリル・ポリカーボネート板】

商品に有機溶剤を含む、殺虫剤やガラスクリーナーを塗布・散布しないでください。
有機溶剤が付着すると、ひび割れが発生するおそれがあります。

【ガラス】

お手入れの際は、必ず柔らかい布をご使用ください。
ガラス表面にキズがつくと、割れるおそれがあります。
ガラス表面にキズがついた場合はお早めに、お取り扱いの建築会社、工務店、
販売店、またはお客様相談室にご相談ください。

【電動商品】

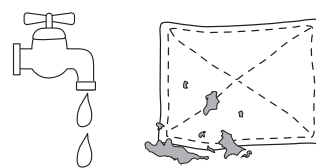
お手入れの際、電装部品に水がかからないようご注意ください。
水がかかると、故障するおそれがあります。
電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、
またはお客様相談室にご相談ください。

お手入れ方法

■通常のお手入れ（ハンドル・引手含む）

1 表面のホコリ・砂を落とす

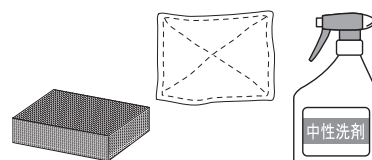
柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。



2 水ぶきする

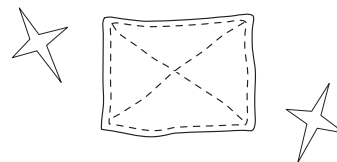
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

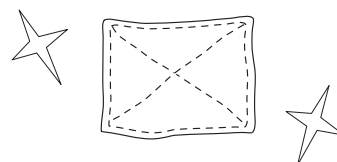
乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■結露・雨水などがかった場合

1 水分をふき取る

すみやかに乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



下枠・レール

- 下枠やレールは、特に砂、ホコリ、ゴミなどがたまりやすいところです。こまめにお手入れしてください。

■下枠・レールのお手入れ

1

砂やホコリを吸い取る

レールのミゾ内部にたまった砂やホコリを掃除機で吸い取ります。

または、やわらかいブラシで砂やホコリを落とします。



2

汚れをふき取る

割り箸の先に布を巻き付け、さらに汚れをふき取ります。



■土間引戸の下枠レール間に水がたまった場合

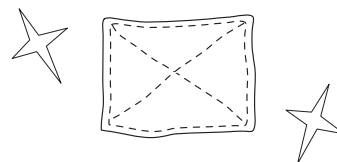
1

水分をふき取る

下枠に水がたまった場合は、乾いた布で水分をふき取ります。

お願い

時間が経つと水は流れていきますが、気になる場合は、ふき取ってください。



カギ・カギ穴

お願い

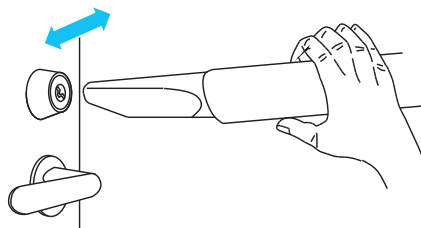
- 油が含まれている潤滑剤（CRC、シリコーンスプレーなど）は使用しないでください。ゴミやホコリがカギ穴内部に付着し、作動不良や故障の原因となります。

■カギ穴のお手入れ

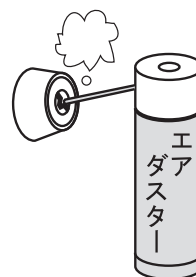
1

ゴミを吸い出す

掃除機をカギ穴につけ、左右に振って中のゴミを吸い出します。



または
パソコンのキーボードのゴミを飛ばすエア
ダスターなどを使って中のゴミを吹き飛ば
します。



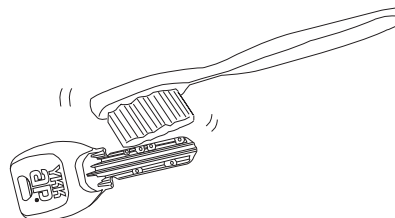
■カギのお手入れ

1

汚れをかき出す

古い歯ブラシなどで、きざみ部分やミゾの
汚れをかき出します。

※定期的に掃除をしてください。



■カギ穴の抜き差しがスムーズにできない、または重い時

1 きざみ部分やミゾを黒く塗る

カギのきざみ部分やミゾを鉛筆でなぞり、黒く塗ります。

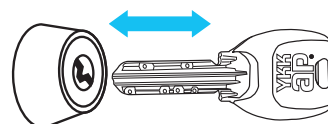
または
錠前潤滑剤をカギ穴に少量スプレーします。

※錠前潤滑剤のご購入はYKKAP Parts Shop まで。
(<http://parts.ykkap.co.jp/shop/>)



2 カギを抜き差しする

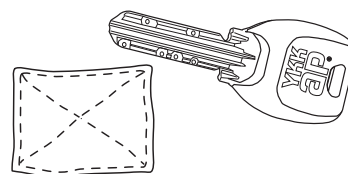
カギ穴に差し込み、数回抜き差しします。



3 鉛筆の黒い粉や錠前潤滑剤をふき取る

カギに付着した鉛筆の黒い粉または錠前潤滑剤を布などでふき取ります。

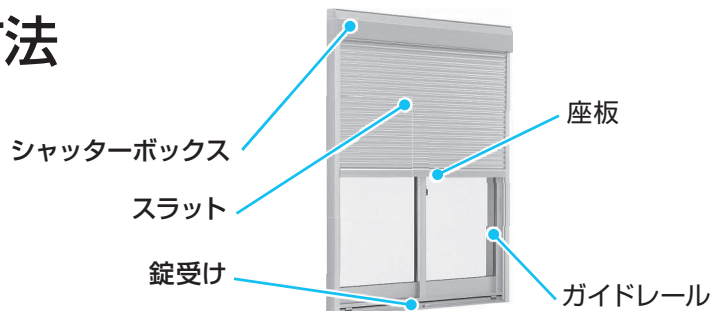
※必ずふき取ってください。そのまま使用すると、衣服等を汚す場合があります。



シャッター

シャッターのお手入れ方法

シャッターにホコリがついたまま開閉すると、表面がキズつくおそれがあります。こまめに汚れを取り除いてください。



ご使用前に確認してください

- 必ず、「安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。

■シャッター表面のお手入れ

第4章

窓

網戸

ドア 引戸

お手入れ

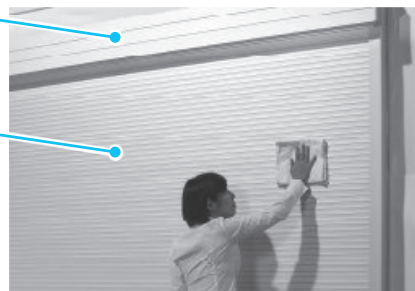
1 汚れを洗い落とす

シャッターボックスやスラットについた汚れを洗い落とします。

- 水をかける場合は、窓を閉めた状態で行ってください。

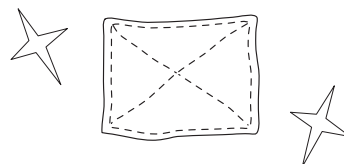
シャッターボックス

スラット



2 乾いた布で水分をふき取る

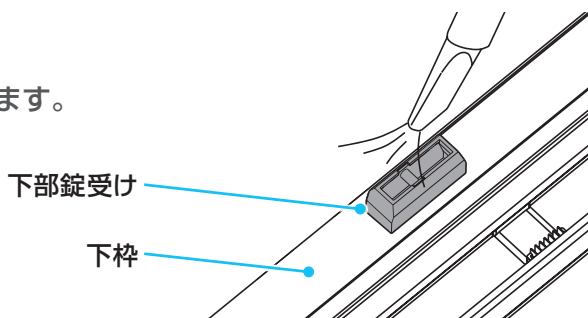
※水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤（1～2%水溶液）で軽く洗い、十分な水で洗剤を流してください。



■錠受けのお手入れ

1 異物を掃除機で吸い取る

砂ボコリや異物を掃除機で吸い取ります。

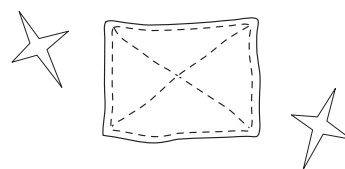


2 ブラシで汚れを落とす

柔らかいブラシで汚れを落とし、水で洗い流します。

3 乾いた布で水分をふき取る

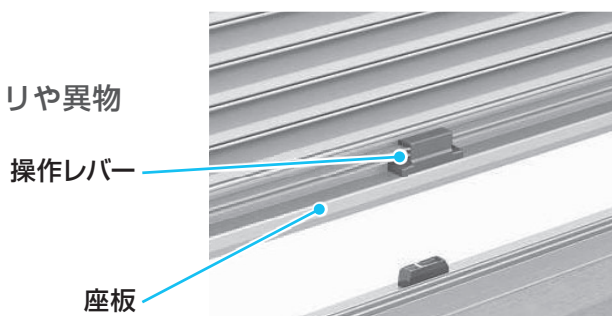
※水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤（1～2％水溶液）で軽く洗い、十分な水で洗剤を流してください。



■座板のお手入れ

1 異物を掃除機で吸い取る

操作レバーの奥に詰まった砂ボコリや異物を掃除機で吸い取ります。

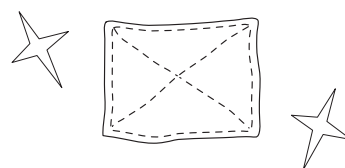


2 ブラシで汚れを落とす

柔らかいブラシで汚れを落とし、水で洗い流します。

3 乾いた布で水分をふき取る

※水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤（1～2％水溶液）で軽く洗い、十分な水で洗剤を流してください。



■ガイドレールのお手入れ

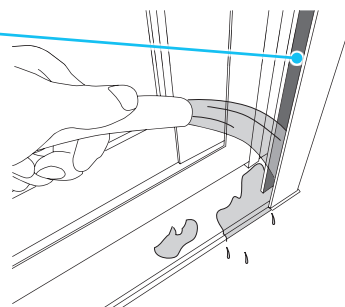
1

ブラシで汚れを落とす

柔らかいブラシで汚れを落とし、水で洗い流します。

- 水をかける場合は、窓を閉めた状態で行ってください。

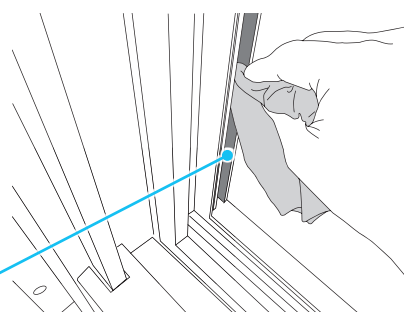
ガイドレール



水ぶきする (水洗いできない場合)

2階などで水洗いができない場合は、室内側から柔らかい布で水ぶきし、ガイドレール内の汚れをふき取ります。

ガイドレール



2

乾いた布で十分ふき取る

※落ちない汚れは、中性洗剤(1~2%水溶液)にひたした布をよくしぼり、汚れを落としてください。その後、乾いた布で十分にふき取ってください。

